

教育の情報化の推進に向けた1人1台端末活用の在り方（第一年次）

—新しい文房具として日常的に活用することを通して—

福島県教育センター 情報教育チーム 指導主事 石田 和之

1 研究の趣旨

小・中学校学習指導要領では、言語能力、問題発見・解決能力とともに情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力として位置付けられた。「教育の情報化に関する手引き（文部科学省）」では、「これからの学びにとっては、ICTはマストアイテムであり、ICT環境は鉛筆やノート等の文房具と同様に教育現場において不可欠なものとなっている」と記され、教育現場ではICTを活用した学習活動の更なる推進が求められている。「GIGAスクール構想」が前倒しとなり、福島県内の小・中学校においてもICT環境が急速に整備された。しかし、「福島県の情報教育の実態等に関する調査」によると、小・中学校ともに教員のICT活用スキルに関する課題が多く挙げられており、教員のICT活用スキルアップに向けた体制づくりが急務となっている。本研究では、GIGAスクール構想で示す学びの変容イメージ「ステップ1」の前段階を「ステップ0」と位置付けて、日常的な活用を提案することにより、1人1台端末活用の在り方について研究を進めることとした。

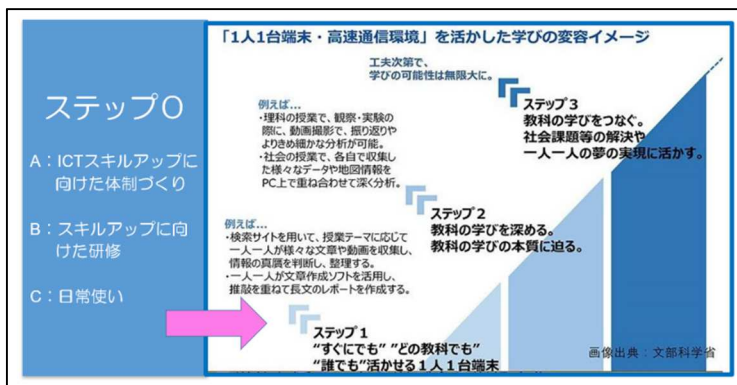


図1 ステップ0と学びの変容イメージ

2 研究の概要

(1) 「福島県の情報教育の実態等に関する調査」の実施

県内全ての学校を対象とした実態調査をWeb上で実施し、情報教育における課題を明らかにする。また、見えてきた課題から、改善の方法を検討し、研究協力校における実践に生かす。

(2) 1人1台端末の日常的な活用方法についての提案

- ① 「ステップ0」（A：スキルアップに向けた体制づくり，B：スキルアップに向けた研修，C：日常使い）を提案し、教員及び児童生徒の日常的な活用につなげる。
- ② 教育センターの研修（出前講座も含む）においてICTの日常的な活用について提案するとともに、学校におけるICTの日常的な活用についての実践事例を収集し、発信する。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 「福島県の情報教育の実態等に関する調査」の結果分析から、情報教育に関する実態を把握することができた。その実態を踏まえ、研究協力校にICTの日常的な活用について提案することができた。
- ② 研究協力校において「ステップ0」（A：スキルアップに向けた体制づくり，B：スキルアップに向けた研修，C：日常使い）を提案し、ICTの日常的な活用につなげることができた。

(2) 今後の課題

- ① 教員、児童生徒ともにICT活用スキルに差異があるため、今後も日常使いを推進し、スキルの向上を図る必要がある。
- ② 学校におけるICTの日常的な活用を図るために、実践例をまとめ発信していく必要がある。